

# 家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課  
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204  
 香川県東部家畜保健衛生所  
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558  
 香川県西部家畜保健衛生所  
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

## 海外からの伝染病の侵入を防止する動物検疫所について (平成28年度全国家畜衛生主任者会議から)

本年4月に開催された平成28年度全国家畜衛生主任者会議で、海外からの伝染病の侵入を防止する動物検疫所についての説明がありましたので紹介します。

海外では日本にはない牛疫、牛肺疫、アフリカ豚コレラなどの家畜の伝染病が多く発生しています。近隣諸国でも、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの流行が続いており、これらの病原体の国内への侵入を防ぐため、日々奮闘しているのが農林水産省動物検疫所です。横浜に本所を置き、全国に7支所、17出張所、5分室があり、ここで働く「家畜防疫官」は、海外での伝染病の発生状況などから、平成元年の193名から平成28年には413名に増員されています。家畜防疫官は、海外から輸入される動物はもちろん、病原体を持ち込む可能性のある畜産物や旅行者の衣服・靴、車両や畜産関係資材などにも目を光らせ、違法な持込の摘発や検査を実施しています。この畜産物の検疫で活用されているのが「検疫探知犬」です。検疫探知犬は平成17年から導入され、現在は22頭の犬たちが畜産物の摘発に活躍しています。さらに、年々増加している海外からの旅行者への対策として、動物検疫に関する注意事項のパンフレットや構内アナウンスを多言語化し、現在は英語、中国語、韓国語、タイ語、タガログ語、ビルマ語に対応しています。

高松空港では、検疫探知犬はおりませんが入国者の靴底消毒を実施するとともに、畜産施設への立ち寄りの有無や、立ち寄った際に着用していた衣類、靴などを身につけていないかを質問し、必要があれば消毒を行っています。また、高松港においても、海外からの直行クルーズ船の乗客に対し、同様の対応を行っています。皆様には、家畜伝染病の発生地域への渡航を可能な限り自粛するようお願いしておりますが、仮に渡航する場合には、現地の家畜や畜産関係施設に近寄らないなどの一般的な注意事項を守っていただくとともに、帰国の際には、到着した空海港の動物検疫所カウンターに立ち寄り、家畜防疫官の指導を受けていただくようお願いいたします。



### 疾病情報

## 家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県)

疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生戸数	発生頭羽群数
牛白血病(届出)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、島根県 山口県、愛媛県、徳島県、香川県	H28.4月~5月	60	64
牛ウイルス性下痢粘膜炎(届出)	牛	兵庫県、香川県	H28.4月	3	3
破傷風(届出)	牛	鳥取県	H28.5月	1	1
牛伝染性鼻気管炎(届出)	牛	鳥取県	H28.4月	1	1
ネオスポラ症(届出)	牛	島根県	H28.4月	1	1
豚丹毒(届出)	豚	兵庫県、広島県、島根県 愛媛県、徳島県、香川県	H28.4月~5月	22	52
サルモネラ症(届出)	豚	愛媛県、徳島県	H28.4月	2	4
伝染性ファブリキウス嚢病IBD(届出)	鶏	香川県	H28.5月	1	5
マレック病(届出)	鶏	岡山県	H28.4月	1	1
鶏痘(届出)	鶏	兵庫県	H28.4月	1	10
パロア病(届出)	蜜蜂	広島県	H28.4月	1	1
アカリングニ症(届出)	蜜蜂	鳥取県	H28.4月	1	1
ノゼマ病(届出)	蜜蜂	徳島県	H28.5月	1	1

## PRRSウイルスの関与が疑われた母豚の死亡及び流産多発事例について (第57回全国家畜保健衛生業績発表会より)

平成28年度全国家畜保健衛生業績発表会において、鹿児島県で豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の関与が疑われた母豚の死亡及び流産多発事例についての報告がありましたので紹介します。

PRRSは、PRRSウイルス（PRRSV）の感染で起こる疾病で、母豚では主に妊娠後期の流産、哺乳豚では虚弱、呼吸困難、開脚姿勢、離乳豚・肥育豚では食欲不振、咳を伴わない呼吸困難、被毛粗剛、増体率の減少、死亡率の上昇が認められます。

鹿児島県での事例は、母豚約1,800頭を飼育する繁殖農場で、母豚数頭に発熱と食欲不振の症状が見られ、その後重篤化し死亡する個体や、あらゆる妊娠ステージの流産が多発し、繁殖豚の死亡は57頭、流産は409腹で確認されました。

PRRSワクチンは母豚子豚ともに接種されていましたが病性鑑定の結果、ワクチン株と異なるPRRSV特異遺伝子を持つ株が検出され、日本で報告されている株より病原性の強い北米で流行した株に近いことが判明しました。

また、発症豚の豚舎間移動により、農場内感染を拡大させたことで甚大な被害となったと言われてい

ます。PRRSは尿、糞便や精液などに多量のウイルスが排出され、豚の移動、人の出入り、糞便に汚染された器具、交配等によって伝播します。したがって、ウイルスの伝播を断ち切るような飼養衛生管理を日頃からきっちりと実施することが必要です。もし、いつもと異なる症状が見られたときは、最寄りの家畜保健衛生所までお問い合わせください。

## 病性鑑定だより

平成28年1月～6月までの病性鑑定実績は表のとおりでした。

依頼が多かった検査は、牛では牛ウイルス性下痢粘膜病検査（51件）、乳房炎検査（33件）、牛白血病（11件）、豚では豚流行性下痢（7件）、鶏では鳥インフルエンザ（12件）でした。今期、発生した主な疾病は、牛では牛ボツリヌス症、クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症（壊死性腸炎）、牛白血病、豚では浮腫病、ミツバチでは寄生虫が原因のノゼマ病、バロア病でした。この中から古典的な病気ですが、最近、発生の多かった豚の浮腫病について紹介します。

病性鑑定実績

畜種	件数	延頭羽数
乳用牛	82	1,123
肉用牛	64	521
豚	18	252
鶏	24	259
その他	31	227
計	219	2,652

### 浮腫病

**原因：**毒素を産生する大腸菌が小腸で増殖して、毒素が腸管から吸収され、血液に入ります。血管が毒素によって変性して、漿液が組織内に漏出して水腫になります。

**症状：**4～12週齢の肥育豚に好発し、食欲不振、元気消失となり、その後、痙攣や後肢麻痺などの神経症状とともに眼瞼周囲や顔面、下腹部などに浮腫が出現します。経過は急性で死亡率は50～90%に達します。

**発症要因：**成長が早く大きいもの、高蛋白飼料を給与しているものに感受性が高く、飼料の変更後1週以内に発生することがあります。また、離乳やワクチネーション、豚房の移動も影響するといわれています。

**予防対策：**治療は困難なので、発生予防が重要です。離乳後は子豚のストレス軽減に努め、発生危険期間の飼料は粗蛋白を減らして粗繊維を増やしたり、制限給餌をします。原因菌は乾燥に弱いので、清掃・消毒に乾燥期間を加えれば効果的です。また、原因菌の多剤耐性が問題となっており、近年では有用な特定細菌によって原因菌の増殖を抑制させるプロバイオティクスが期待されています。



眼瞼の浮腫

## 「ルーメンアシドーシス」を防ぐために (平成28年度 牛疾病特殊講習会より)

「ルーメンアシドーシス」とは、ルーメン（第一胃）に乳酸や揮発性脂肪酸が異常に蓄積し、pHが異常に下がった（酸性になった）状態であり、肝炎、肝膿瘍、鼓脹症、第四胃変位等、様々な疾病の原因となります。なぜ、ルーメンアシドーシスが起きるのでしょうか？

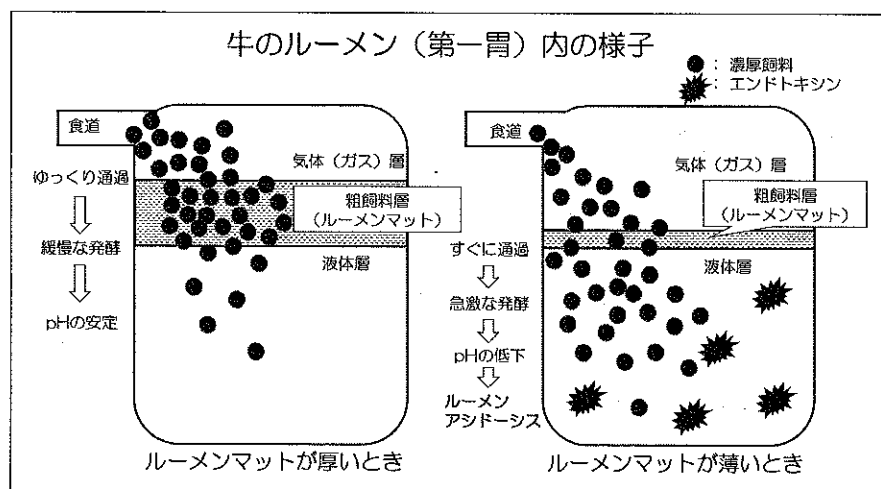
ルーメンの中は、上部から、気体（ガス）層、粗飼料層（ルーメンマット）、液体層の3層に分かれています。液体層には様々な微生物がいて、牛が食べた飼料を分解・発酵しています。

粗飼料がしっかり給与されている牛のルーメンには、厚いルーメンマットが形成されており、濃厚飼料が給与されてもルーメンマットをゆっくりと通過するため、微生物による発酵は緩慢に進み、胃液のpHは安定します（図左）。

一方、粗飼料の給与量が不足している牛のルーメンでは、給与された濃厚飼料は薄いルーメンマットをすぐに通過するため、微生物による発酵が急激に進み、胃液のpHが低下し、ルーメンアシドーシスとなってしまいます（図右）。

さらに、pH低下により、胃液内で死滅したグラム陰性桿菌からエンドトキシン（内毒素）が遊離し、胃運動の減退、停止や肝障害が引き起こされます（図右）。

ルーメンアシドーシスを防ぐために、濃厚飼料を給与する前にしっかりと粗飼料を給与し、厚いルーメンマットを形成させましょう。



## 意外と知られていない反芻動物の植物中毒 (平成28年度家畜衛生講習会（基本講習会）から)

意外と知られていないようですが、家畜では身近な植物による中毒報告が多いそうです。例えばキョウチクトウやアセビ、ユズリハなどの庭木による中毒。また、カラシナやキャベツ、ケールといったアブラナ科の植物も反芻動物に中毒を起こすことがあります。人間が食べているから大丈夫だろうと家畜に安易に野菜を与えるのは危険ということもあります。ほんの一部ですが、紹介します。

有害植物	有毒物質	中毒症状
キョウチクトウ、モロヘイヤ種子	強心配糖体	痙痛、下痢、食欲不振等の消化器症状、頻脈等の心臓症状
アセビ、ネジキ、ハナヒリノキ	グラヤノトキシン	嘔吐、泡沫性流涎、四肢開張、起立不能、痙痛、腹部膨満、呼吸促迫、全身麻痺
ユズリハ	ダフニマクリン、ユズリミン	痙痛、黄疸、チアノーゼ、第一胃の運動の停止、便秘または下痢
カラシナ	カラシ油配糖体	消化管・肝臓等の出血、下痢、痙痛、血尿、起立不能、呼吸困難
キャベツ、ケール	S-メチルシステインスルホキシド	(溶血性)貧血、暗赤色・褐色尿、粘膜蒼白、便秘
エゴマの葉	3位置換フラン	呼吸数増加、呼吸困難、流涎、急死

## 緊急！！ 畜産環境苦情の多発警報

畜産環境に関する苦情が最近多く寄せられています。

畜舎からのふん尿の早期排出など家畜排せつ物の適正管理や施設内外の清掃など、家畜の飼養に伴う悪臭、害虫の発生を防止・低減しましょう！！

東部・西部家畜保健衛生所調べ

苦情内容	H28. 4月～7月	H27. 4月～7月
悪臭	9	6
水質汚濁	1	1
衛生害虫	2	3

(件数)

### <お知らせ>

#### ○第80回香川県畜産共進会

第1部(乳用牛)、第2部(肉用種牛)11月9日(水)、10日(木) 綾川町 香川県家畜市場  
 第3部(肉豚)11月4日(金)、5日(土) 坂出市 株式会社香川県畜産公社  
 第4部(肉牛)11月29日(火)、12月2日(金) 坂出市 坂出食肉地方卸売市場  
 知事賞授賞式:11月26日(土) 高松市林町 サンメッセ香川

#### ○水濁法に基づく硝酸性窒素等の暫定排水基準の見直しについて

水質汚濁防止法により、総面積がそれぞれ50㎡以上の豚房、200㎡以上の牛房、500㎡以上の馬房のいずれかに該当する施設を持つ農場は、公共用水域(河川、湖沼など)に排水する場合、同法に基づく排水基準をクリアすることが必要です。

今般、現行の暫定排水基準値(700mg/l)が平成28年6月30日をもって適用期限を迎えたことから、環境省において見直しが行われ、7月1日から新たな暫定基準(600mg/l)が適用されています。

引き続き、家畜排せつ物の適切な管理に努めてください。

#### ○香川県 養牛研修会の開催について

下記のとおり、研修会を開催します。

日時：平成28年9月9日 13:00～16:00

場所：高松国分寺ホール(高松市国分寺町新名430番地)

演題(講師)：

- ①牛ボツリヌス症について(大)大阪府立大学 幸田先生)
- ②牛ボツリヌス症ワクチンについて(株)微生物化学研究所 久保田先生)
- ③飼料に添加されるモネンシンについて(J A西日本くみあい飼料(株) 岩月先生)

○参加を御希望の方は、香川県庁 畜産課 衛生環境グループ 山本まで御連絡ください。

電話：087-832-3428 FAX：087-806-0204